

日点委通信

No.12

1996年10月1日発行

30年一世代昔の感慨

会長 阿佐 博

十年一昔という。これを日点委に合わせて、30年昔はなんと表現すればいいだろうか。考えてみると、30年前は一世代前と言えそうである。「30年一世代昔」という慣用句はないと思うが、その30年昔に日点委は発足したのであった。

言うまでもなく、日点委がこの声をあげたのは昭和41年である。ちょうど点字図書館の新設ブームのころで、多くの点字図書館で点訳奉仕者養成の作業が活発になるうとしているころであった。そしてその指導には、表記法として何を基準にすべきか皆悩んでいた。有力なものとしては、「日本点字研究会」の『点字文法』や日本点字図書館の『点訳のしおり』があったが、それらの間にも表記についての微妙な差が見られた。そこで、標準となるテキストが強く求められていたのである。こうした背景の下に、表記の統一という要望を担って生まれたのが日点委であった。

委員も慎重に選ばれた。教育界から5人、社会福祉関係から5人、それに学識経験者を数人加えての発足であった。そして、この委員会で決められたことはみんなで守ろうという紳士協定がごく自然にできあがったのである。そのことを見ても、点字表記法の統一がどんなに強く求められていたかを知ることができる。

こうして日点委はこの声をあげたのであったが、諸準備が調わずしばらく具体的な活動を開始することができなかった。そして、ようやく最初の実りとして『日本点字表記法（現代語篇）』を世に送ったのは昭和46年のことであった。しかしこのことは、わが国の点字の歴史において一つのエポックを画するものであったと私は思っている。なぜなら、これ以後点字表記に関する関心が一層高まり、各地において微に入り細にわたって点字表記の研究が行われるようになり、点訳奉仕者の養成活動なども盛んになったからである。

研究が盛んになれば当然そこからいろいろな意見が出てくるようになる。そうした意見を取り入れてその後2回の改訂が行われ、現在の1990年版に至っているのである。

だが、日点委の活動はこのような国語の表記法の研究のみにとどまるものではなかった。各種の小委員会を設けて、その時々解決しなければならない問題に取り組んできた。その結果、数学記号や理科記号の改訂が行われ、また情報処理に必要な記号なども作成して、教育上の必要を満たし研究者の要請にも応えてきた。現在も「点字科学記号専門委員会」をつくり、新しい記号体系の確立を目指して、委員の方々に研究をお願いしている。

去る5月に行われた第32回総会の際、懇親会の席上で私は今年が日点委創立30周年に当たることをお話ししてみんなで祝杯をあげた。もちろん初期の委員とはほとんど顔ぶれが異なっている。紳士協定を結んだ人たちは、多く現役を退かれている。だとすると初期のころに比して日点委に対する認識にも若干の差ができていくかも知れない。パソコン点訳の導入をはじめ、点字を取り巻く環境もかなり変わってきている。しかし、先人の残した「読みよく、書きよく、わかりよく」という点字表記の研究は、なお続けなければならないと私は思っている。あれやこれやを思い、「30年—世代昔」をしのんで感慨ひとしおのものを覚えている昨今である。

日本点字委員会総会報告

日本点字委員会は、1996年5月11日・12日の両日、横浜市・都筑区の障害者研修保養センター「横浜あゆみ荘」において、第32回総会を開催し次の事項を協議した。

1. 複合語の切れ続きについて

当山啓事務局員から『点字表記辞典』での外来語の検討、水谷吉文事務局員から東海点字研究会での「動植物名の点字表記についての提案（中間報告）」、渡辺昭一事務局員から近畿点字研究会における「漢字4字の漢語のうち二つの成分の境目の文字が3文字目で重なって一つ省略されたとみられる複合語等の切れ続きについての検討」、金子昭委員から関東地区小委員会で検討中の「転成和語名詞について」、宮村健二委員から第4回あん摩・マッサージ・指圧師、はり師、きゅう師等国家試験における点字表記に関して「切れ続きの議論で話題になりそうな表記」、細川啓子委員から日点委総会用一部抜粋版の「点字表記に関するアンケート」等の提案や報告があり、『日本点字表記法 1990年版』の第3章第2節の「自立語内部の切れ続き」の規則を踏ま

えて協議した。

2. 情報処理用点字表記の一部修正

点字科学記号専門委員会で検討中の情報処理用点字表記のうち、プログラム言語の書き方が変わってきていることなどとの関連で、一部用語等の変更を行った。具体的な内容は『日本の点字』第21号の「情報処理用点字表記に関する報告」を参照されたい。

3. 『試験問題の点字表記』の刊行

『日本の点字』第21号に掲載した「試験問題の点字表記」の構想を基に、総会出席者から指摘のあった事項等の修正を加え、具体例などを添えて、各種の点字試験や学習参考書の点訳等に活用できる冊子を刊行する。

日本点字図書館第2期工事に伴う日本点字委員会事務局 臨時移転のお知らせ

日本点字図書館の第2期工事着工のため、日本点字委員会の事務局は、平成8年6月から下記の住所に移転しています。約2年間の予定ですのでよろしくお願ひします。

〒176 東京都練馬区桜台6-33-27 日本点字図書館仮事務所内

電話 03-3993-9841 FAX 03-3993-9861

(電話・FAXとも日本点字図書館出版事業部と同じです)

なお、本会発行図書のうち日本点字図書館出版事業部扱いの『日本点字表記法1990年版』の点字版、並びに日本点字委員会事務局扱いの『点字数学記号解説』『点字理科記号解説』『日本の点字100年の歩み』の各点字版、および『日本の点字』の墨字版・点字版のご注文やお問い合わせは、この仮事務所へお願いいたします。

「UBC最終報告」頒布のご案内

日本財団のボランティア支援を受けて製作していた『統一英語点字コード研究プロジェクト文書コードの拡張——国際英語点字協議会第2委員会最終報告』の日本語版が完成しました。墨字版は750円(送料240円)、点字版は3000円(送料無料)で日本点字委員会事務局で頒布の取り扱いをしています。

頒 布 図 書 案 内

注文先・日本点字図書館用具事業部（消費税がかかります）

1. 『日本点字表記法 1990年版』（墨字版） 1000円（送料310円）
2. 『点字数学記号解説』（墨字版） 600円（送料240円）
3. 『点字理科記号解説』（墨字版） 600円（送料240円）
4. 『日本の点字100年の歩み』（墨字版） 500円（送料240円）

（郵便振替 00150-8-44522）

注文先・日本点字図書館出版事業部（消費税はかかりません）

1. 『日本点字表記法 1990年版』（点字版） 5100円（送料無料）

（郵便振替 00190-9-750672）

注文先・日本点字委員会事務局

- | | （点 字 版） | （墨 字 版） |
|---|-----------------------------------|--------------|
| 1. 『点字数学記号解説』 | 1200円（送料無料） | |
| 『点字数学記号解説別冊』 | 3800円（送料無料） | |
| 2. 『点字理科記号解説』 | 1200円（送料無料） | |
| 3. 『日本の点字100年の歩み』 | 700円（送料無料） | |
| 4. 『統一英語点字コードプロジェクト文書コード(英語点字)の拡張・中間報告』 | 1500円（送料無料） | 500円（送料240円） |
| 5. 『統一英語点字コード研究プロジェクト文書コードの拡張・最終報告』 | 3000円（送料無料） | 750円（送料240円） |
| 6. 『日本の点字 第9号』 | 300円（送料無料） | 300円（送料190円） |
| 7. 『日本の点字 第11号』 | 400円（送料無料） | 400円（送料240円） |
| 8. 『日本の点字 第12号』 | 400円（送料無料） | 400円（送料240円） |
| 9. 『日本の点字 第13号』 | 500円（送料無料） | 500円（送料240円） |
| 10. 『日本の点字 第14号』 | 500円（送料無料） | 500円（送料240円） |
| 11. 『日本の点字 第16号』 | 500円（送料無料） | 500円（送料190円） |
| 12. 『日本の点字 第17号』 | 600円（送料無料） | 600円（送料240円） |
| 13. 『日本の点字 第18号』 | 500円（送料無料） | 500円（送料240円） |
| 14. 『日本の点字 第19号』 | 500円（送料無料） | 500円（送料190円） |
| | （点訳者挿入符の使い方についての検討案 鳥居篤治郎先生と点字 他） | |
| 15. 『日本の点字 第20号』 | 500円（送料無料） | 500円（送料240円） |
| | （同音異穴の点字注記標準化についての提案 他） | |
| 16. 『日本の点字 第21号』 | 500円（送料無料） | 500円（送料240円） |
| | （情報処理用点字表記に関する報告 試験問題の点字表記 他） | |

墨字版の送料は冊数が多くなれば割安になりますのでお問い合わせください。

〒176 東京都練馬区桜台6丁目33番27号 電話 東京03 (3993) 9841

日本点字図書館内 日本点字委員会事務局（郵便振替 00100-1-42820）